

令和5年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** 県単

事業名	林道事業 [森林管理道開設事業 (国補)]			事業箇所	笛吹市一宮町石～笛吹市一宮町土塚	地区名	林道大松沢線	事業主体	山梨県												
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項 (関連事業概要等) ・なし ⑤これまでの評価状況 ・なし																	
	H25～R5	～	H25～R13																		
総事業費	885 百万円	— 百万円	1,443 百万円																		
(1) 事業の概要																					
①事業目的及び効果																					
本路線は、笛吹市一宮町大字石と笛吹市一宮町大字土塚を連絡する林道であり、京戸川流域と大石川流域の森林を管理経営する骨格的な路線である。 利用区域119haのうちヒノキ・アカマツ等の人工林面積は91haで人工林率は約76%を占めている。 本林道を開設することにより、これらの森林資源の循環利用を進めるとともに、森林を適正に管理し保全することで、水源かん養機能及び山地災害防止機能の高度発揮が期待できる。																					
□主要目標 ○森林整備の効率化 ・利用区域内の人工林における伐採対象人工林の割合 14.0% ≤ 36.5%※ ・利用区域内の人工林率 76.5% ≥ 69.9%※ ・徒歩で30分以内に到達できる範囲内森林の人工林率 71.5% ≥ 70.0%※ (※評価基準値)																					
□副次目標 ○なし																					
□副次効果 ○防火帯・延焼遮断帯の確保 ○リサイクルの推進																					
②事業概要																					
森林管理道 計画延長 3,306m 幅員 4.0m 利用区域面積 119ha 森林資源蓄積量 18,894m ³																					
③全体計画																					
		令和4年度まで	令和5年度 (評価実施年度)	令和6年度以降																	
現計画	工事内容	林道開設 L=3,000m	林道開設 L=306m	/																	
	事業費	830 百万円	55 百万円																		
変更計画	工事内容	林道開設 L=2,751m	林道開設 L=150m	林道開設 L=650m																	
	事業費	798 百万円	55 百万円	590 百万円																	
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。																					
(2) 事業位置図等																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用区域</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既整備区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>当年度計画区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>残計画区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>接続道路</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										凡例		利用区域		既整備区間		当年度計画区間		残計画区間		接続道路	
凡例																					
利用区域																					
既整備区間																					
当年度計画区間																					
残計画区間																					
接続道路																					
出典：国土地理院発行5万分の1地形図 電子地形図50000(国土地理院)を加工して作成																					

2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

笛吹市長からの意見書（R5.4.20）

- ・利用区域内は、ヒノキ等の人工林が約8割を占めており、本林道を活用した木材生産が期待できる。
- ・林道京戸岩崎山線と林道大積寺線を結び林道であり、開通することにより搬出作業だけでなく森林の持続的な施業が可能となり、森林の荒廃防止が期待できるため、引き続き開設工事を進めていただくことを要望する。

②産業・経済情勢

県内では、平成30年度に大月市で木質バイオマス発電所が、また、令和元年度には身延町で大型合板工場が稼働しており、本路線の開設によって、これらの県内需要に対する木材供給が可能となり、森林資源の有効活用による林業の成長産業化が期待される。

また、2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技会場等に木材が活用されるなど、木材利用の意識の高まりを見せており、今後更なる木材需要の拡大が期待される。

③国等の方針

令和3年度に策定された森林・林業基本計画では、令和12年度の国産材供給目標量を令和元年度比135%にあたる42百万m³とし、目標達成に向け、路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの構築等、林業の生産性の向上を推進することとなっている。

④上位計画・関連事業計画等

- ・山梨県総合計画（令和元～4年度）
- ・富士川上流地域森林計画（令和4～13年度）
- ・山梨県林内路網整備計画（令和2～11年度）
- ・第4次県有林管理計画（令和3～12年度）
- ・やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン（令和2～11年度）
- ・山梨県社会資本整備重点計画（令和2～9年度）

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点	変更計画時点
総事業費		885 百万円	1,443 百万円
工期		H25～R5	H25～R13
評価基準年		H24	R5
経済 効 率 性	費用	1134 百万円	1,560 百万円
	建設費	1093 百万円	1,516 百万円
	維持管理費	41 百万円	44 百万円
	その他	－ 百万円	－ 百万円
	便益	1172 百万円	1,594 百万円
	木材生産等便益	56 百万円	85 百万円
	森林整備経費縮減等便益	990 百万円	1,387 百万円
	災害等軽減便益	126 百万円	122 百万円
	その他※	－ 百万円	－ 百万円
	B/C		1.03

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、なし

木材生産等便益：林道が整備されたことによる木材の生産性向上や利用促進にかかる便益等

森林整備経費縮減等便益：森林の有する多面的機能である国土保全及び水源かん養機能等にかかる便益等

災害等軽減便益：自然災害時に迂回路や避難路として利用されることによる便益等

（3）これまでの計画変更等の概要

なし

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率

下表のとおり。

②進捗率実績が計画と相違している理由

事業着手後の詳細な現地調査に基づくルート変更により、路線延長が増えたことに加え、工種や工法を地形・地質条件に応じて変更しており、これらが当初計画に対し、事業の進捗を遅らせる要因となっている。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
路線延長	172 百万円 増	詳細な現地調査に基づく、線形決定による路線延長の増
橋梁工	198 百万円 増	砂防指定地内の協議により、ボックスカルバート工に代えて橋梁工を採用
補強土壁工	188 百万円 増	木材生産に必要な作業スペース確保のため、補強土壁工法を採用
合計	558 百万円 増	

※事業費増額には資材、労務単価上昇による額を含む

④事業期間の変更理由及び進捗予定

事業着手後のルート変更による路線延長の増に加え、砂防管理者との協議や現地条件に応じた工法変更等により当該林道の開設単価が上昇しており、事業の進捗が遅れが生じている。

また、労務費や資材価格の高騰も続いており、事業進捗に更なる影響が見込まれることから計画期間を8年延長し、令和13年度の完成を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

(5) 環境負荷等への配慮

地形の改変を極力少なくする路線計画とし、切土・盛土法面については、緑化による保全が見込める箇所は在来種を配合した法面対策工による緑化を採用するなど、良好な自然環境の維持に努める。

(6) コスト削減の可能性

切土高や路側構造物等が極力小さくなるよう、地形に沿って平面・縦断線形を計画する。

(7) 代替案立案の可能性

なし。

(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他()

(理由)

本路線は、森林を適正に管理し木材の生産の基盤となる林内路網を構築する上で必要な林道であることから、変更計画のとおり令和13年度に完成を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

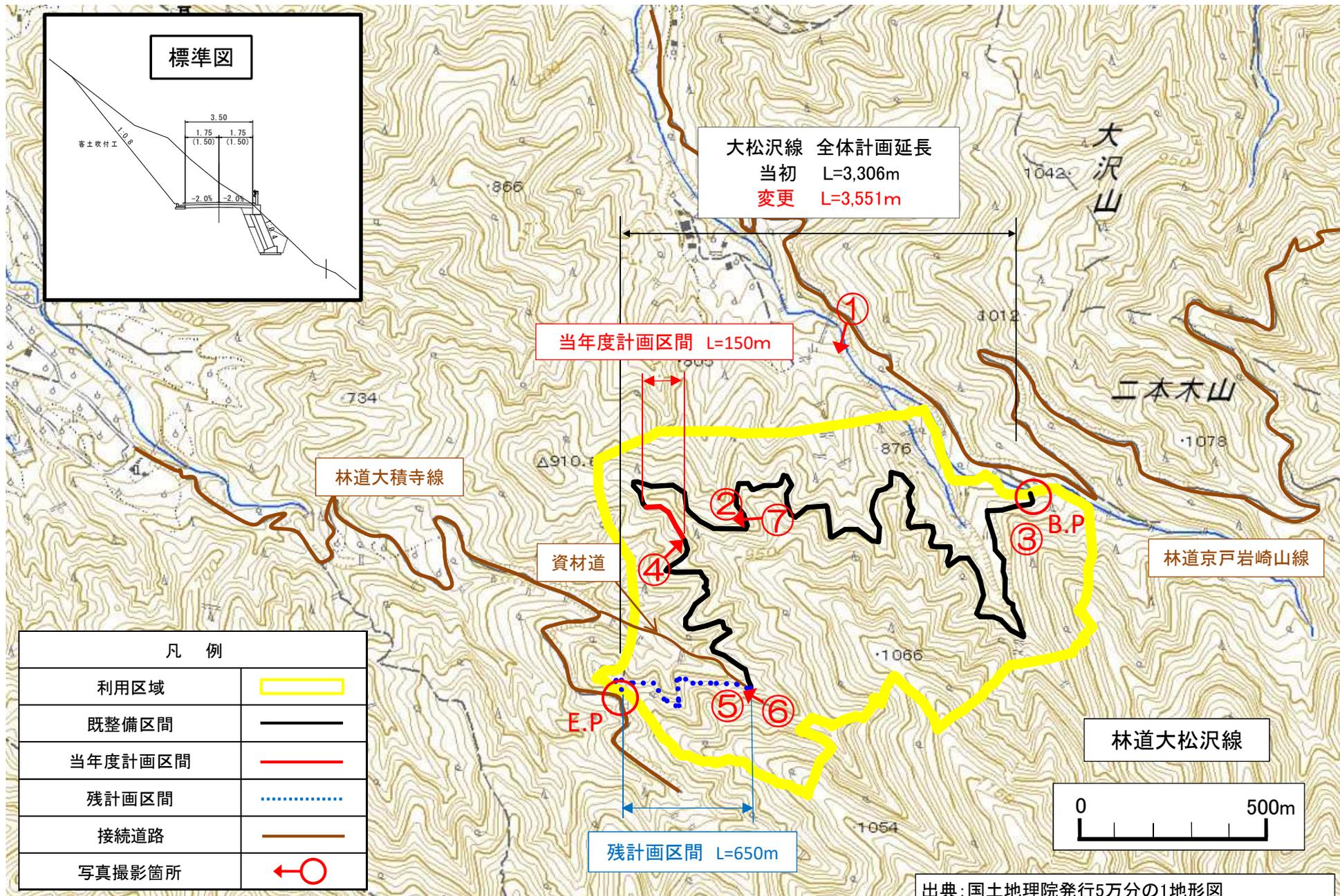
算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位：%

	年度	*H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	*R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
現	計画	11.5	16.4	27.1	40.7	47.3	57.4	68.7	79.6	84.2	93.8	100.0								
	実績	11.5	16.4	27.1	40.7	47.3	53.9	61.8	73.1	81.6	90.1	96.3								
変更計画												59.0	63.2	67.9	75.6	80.1	84.7	89.3	93.9	100.0

*事業着手年度又は評価年度

*R5年度の実績は見込み

3.添付資料シート(1)



出典: 国土地理院発行5万分の1地形図
電子地形図50000(国土地理院)を加工して作成

3.添付資料シート(2)



① 計画地遠景



② 整備済み区間の状況



③ 既設林道沿線における森林整備の状況

3.添付資料シート(3)



④ 当年度計画区間の近景



⑤ 残計画区間の林内状況



⑥ 橋梁計画箇所の状況

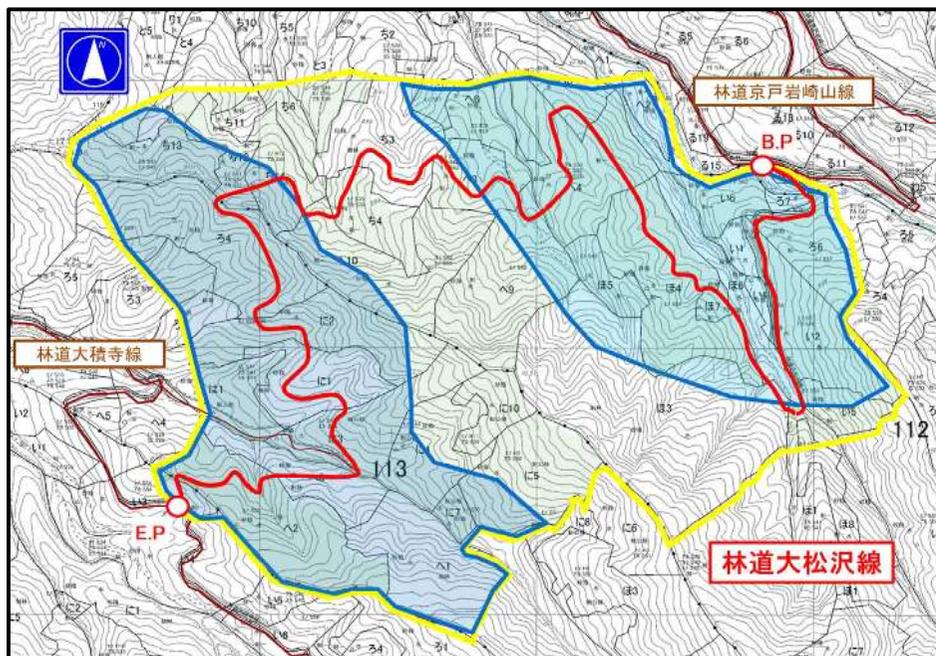


⑦ 補強土壁工による盛土箇所

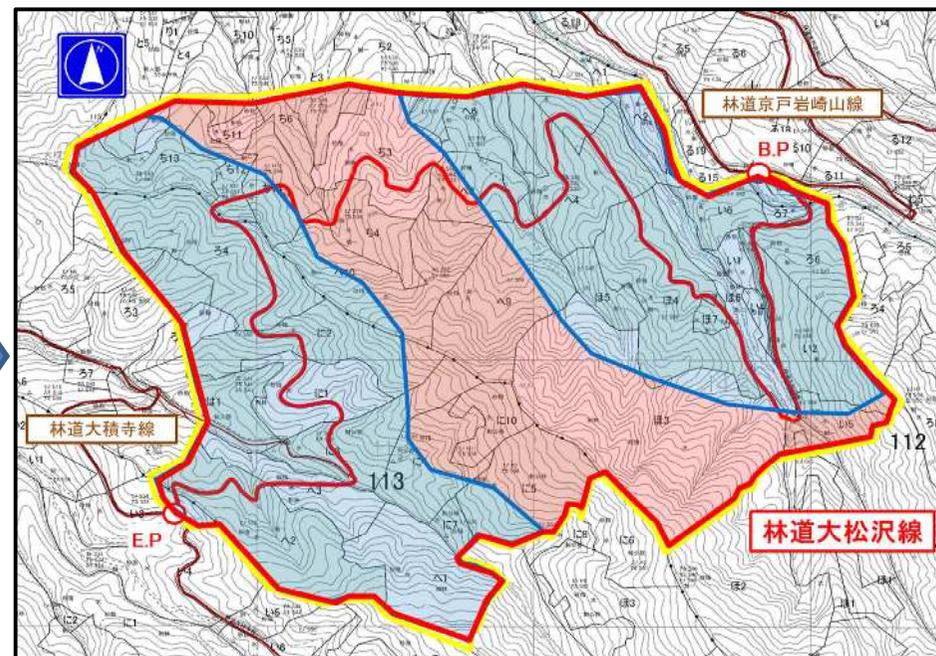
3. 添付資料シート (4)

徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率

林道開設前:人工林率71.5%



林道開設後:人工林率76.5%



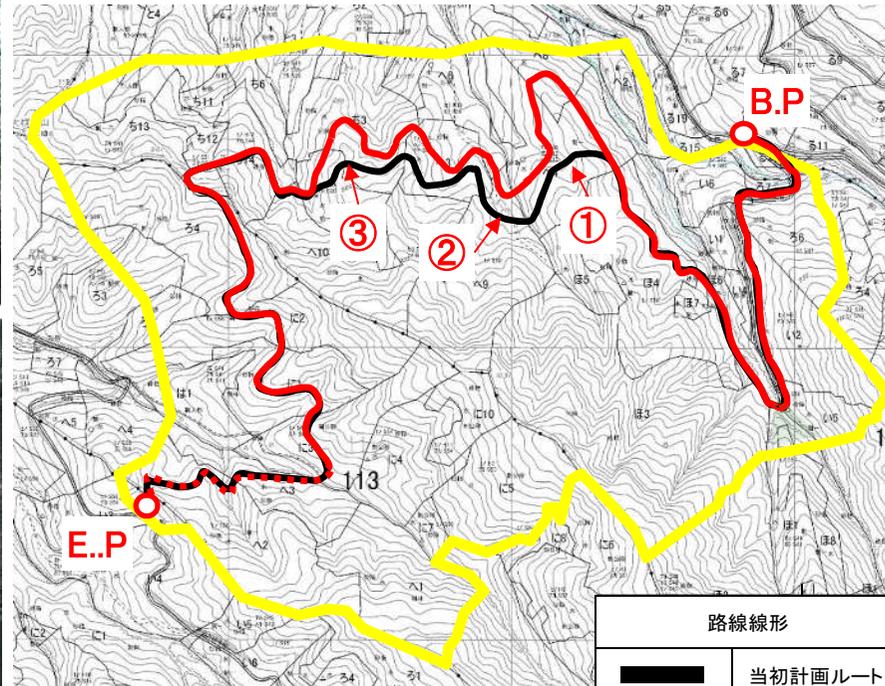
※ 徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率:基準値70%

-  利用区域
-  利用区域内 人工林
-  林道開設前 徒歩30分圏内
-  林道開設後 徒歩30分圏内
-  徒歩30分圏内増加箇所

3.添付資料シート(5)

事業費増の理由 路線延長の増

② 転石群



路線線形	
	当初計画ルート
	変更計画ルート

① 崩落箇所



③ 不安定な岩塊



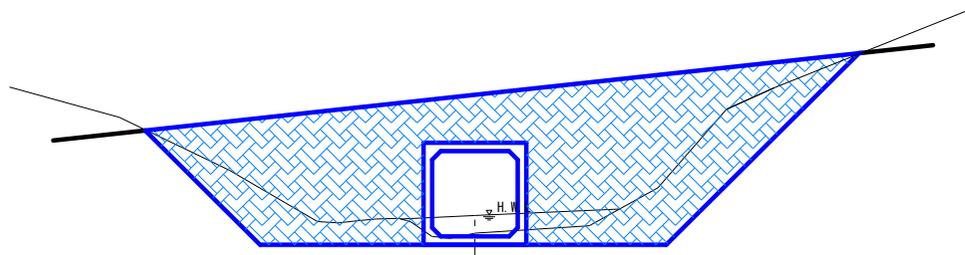
【変更】

・現地踏査の結果により、崩落箇所や転石群等を避ける線形に変更。
(当初計画L=3,306m→変更計画L=3,551m) C=172百万円増

3.添付資料シート(6)

事業費増の理由 橋梁工の変更

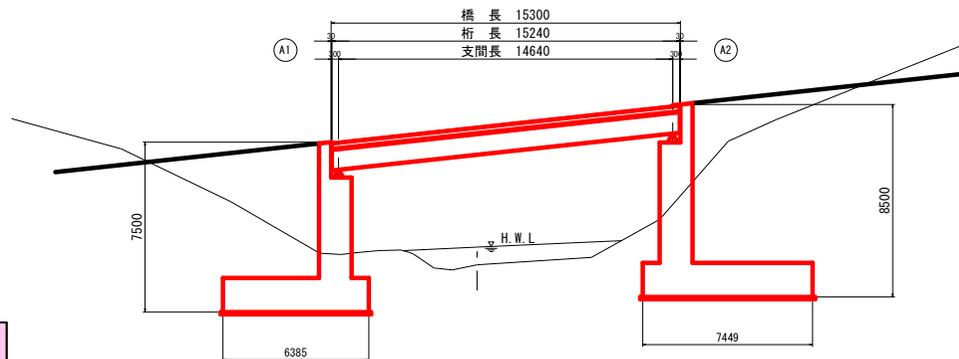
当初 ボックスカルバート工



【変更】

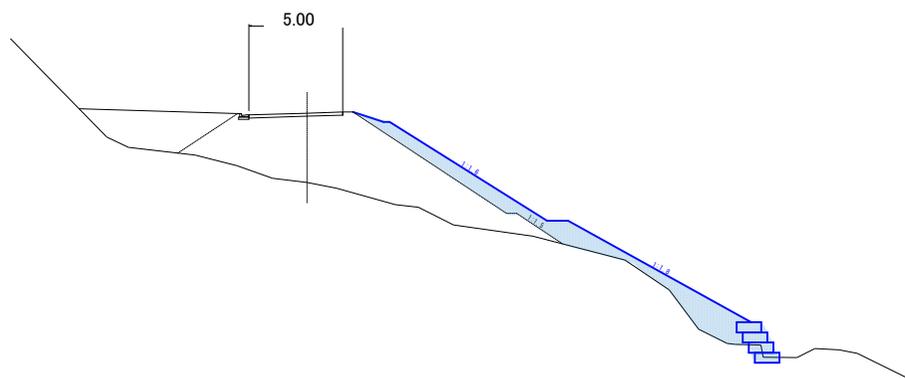
・砂防指定地内の協議結果により、暗渠工(ボックスカルバート工)から開渠工(橋梁工)へ変更(2箇所)。
C=198百万円増

変更 橋梁工



事業増の理由 擁壁工の変更

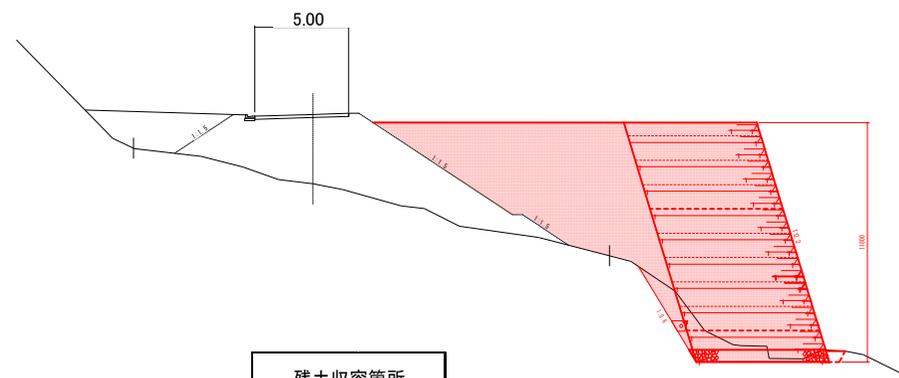
当初 盛土工 + フトンカゴ工



【変更】

・砂防指定地内であり、木材集積場の適地が少ないことから、木材生産に必要な作業スペースを確保するため補強土壁工に変更。
C=188百万円増

変更 補強土壁工



残土収容箇所

	当初
	変更

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H25	101,986	林道開設工 L=323m	7.0
H26	43,580	林道開設工 L=219m	10.0
H27	94,121	林道開設工 L=525m	16.6
H28	120,141	林道開設工 L=449m	24.9
H29	58,564	林道開設工 L=127m	28.9
H30	58,581	林道開設工 L=346m	33.0
H31	70,136	林道開設工 L=220m	37.9
R2	100,000	林道開設工 L=259m	44.8
R3	75,301	林道開設工 L=93m	50.0
R4	75,350	林道開設工 L=190m	55.2
R5	55,000	林道開設工 L=150m	59.0
R6	59,950	林道開設工 L=100m	63.2
R7	68,700	林道開設工 L=100m	67.9
R8	110,000	林道開設工 L=20m	75.6
R9	66,000	林道開設工 L=100m	80.1
R10	66,000	林道開設工 L=100m	84.7
R11	66,000	林道開設工 L=100m	89.3
R12	66,000	林道開設工 L=100m	93.9
R13	88,000	林道開設工 L=30m	100.0
合計	1,443,410	林道開設工延長合計 L= 3,551m	